

題材の目標

- (1) 形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や技法などを基に、全体のイメージや作風で捉えることができる。
- (2) 人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

【準備等】 参考資料、ワークシート、タブレット端末、視聴覚機器、企画書用A4ケント紙、紙粘土、水彩絵の具、へら、型押し、綿棒、和菓子の本、筆記用具など

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 伝統工芸品のよさに触れ、未来について考える。</p> <p>★伝統工芸品をじっくり見て鑑賞し、技の伝承について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統工芸品に触れながら鑑賞し、形や色彩、つや、手触り、重さ、使い心地など、感想を話し合わせる。 ○ 教科書の他作品も鑑賞し、伝統工芸品の特徴やよさ、美しさなどを感じ取る。 <p>○ つくる人の思いや使う人の思いについて触れる。</p> <p>○ 日本各地の伝統工芸品について知る。</p> <p>○ 手から手へ受け継がれる技や、私たちの生活の中に生きる伝統工芸品のよさや未来について考える。</p> <p>2 自然のよさや、季節感を取り入れた日本の伝統や、使う場面を基に主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考えアイデアスケッチをする。</p> <p>★日本の四季を取り入れて構想を練ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で販売する新作和菓子の企画書を書く。 <p>3～4 主題を基に材料や用具の特性を生かし、見通しをもって表す。</p> <p>★四季の自然が織りなす造形の美しさを創意工夫して表現してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企画書を基にマケットをつくる。 	<p>・ 地域の伝統工芸品で適切なものを選んで鑑賞教材として生徒に提示する。</p> <p>・ 提示する資料として、大量生産によりつくられた身の回りのものと比較鑑賞させるなどの工夫をするとよい。（南部鉄瓶とやかん、漆器とプラスチックのカップなど）</p> <p>・ 実際にお湯を沸かしてみたり、お茶を入れて飲んでみたりする工夫もあるとよい。</p> <p>・ 伝統工芸品を使っている人の感想や様子を合わせて紹介する。</p> <p>・ 教科書下P.58「受け継ぐ伝統と文化」について取り上げ、日本各地の伝統工芸品についても紹介する。</p> <p>【評】 工芸作品とそれらを生み出す手による技の素晴らしさなどに関心をもち、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 生徒自身の好きなもの、季節の区分、関連行事、材料とその色、形や色彩に込めた思いを書かせ、具体的な構想を練りやすくする。</p> <p>・ A4ケント紙に色鉛筆や水彩絵の具、フェルトペンなどを使用させる。</p> <p>【評】 季節感を取り入れた日本の伝統や、食す場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果を総合的に考え、表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 材料や用具の使い方、紙粘土に着色する方</p>

	<p>法などを伝えたり、使い方の例を提示したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土、水彩絵の具、へら、型押し、綿棒などを使う。 <p>【評】材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって制作活動に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】季節感を取り入れた日本の伝統や、食す場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

本題材は、安価な素材で大量生産されるものや、消費することで便利さを追求したりするものが多く出回る世の中にあって、素材にこだわり、自然や地域の文化を生かしながら一つ一つが人の手による技と、心を込めてつくられた日本の伝統工芸品のよさや美しさ、つくる人の思いなどの素晴らしさを感じ取らせる題材である。伝統工芸品のよさは本物に触れることで感じ取ることができる。生徒には本物の色やつや、手触り、重さ、形などのよさを実感させながら味わわせ、つくる心と使う心を大切にしていくことを学ばせる。